

タリーの理念を端的に表現している。しかし「超我」は自然に腑に落ちるものの、「最も多く報いられる」には抵抗感がある。これについて私たちは「陰徳あれば陽報あり」、「情けは人の為ならず」、「積善の家には必ず余慶有り」とのことわざと通底するとして自らを納得させてきた。しかし、それでも疑念はどうしても残る。

最近、私は森本あんり著『反知性主義』（新潮選書）を読み、この疑念に対する私なりの解答を得た。著者は説く。キリスト教がアメリカに渡り、土着化し、独特のアメリカ化キリスト教になった。それは契約宗教であり、人間が信仰という義務を果たせば神は祝福を与える義務を負い、人間はそれを権利として要求できる、ということである、と。

ロータリーをつくり、発展させてきたのはアメリカ人である。アメリカ化キリスト教、契約宗教を信仰するアメリカ人にとって「超我」と「報いられる」の二つの概念の融合は矛盾なく、当然のように彼らの確信となる。そのように解釈すれば、日本人の私たちにも納得ができる。

しかし、日本人には日本人の信条がある。日本人の心を形づくってきたのは神道、仏教、そして武士道であると考える。私はかつて比叡山延暦寺座主、山田恵諦師（一八九五～一九九四）が著した『己を忘れて他を利する』山田恵諦法話集』を読み、「仏教とは忘己利他もうこりたの四文字である」との説に深い感銘を受けた。また、武士道の究極は、滅私奉公である。後藤新平（一八五七～一九二九）の自治三訣「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう」とはかつての日本人

の倫理の常識であった。利己を排し利他を尊ぶ心が日本人の信条である。これこそ日本人の考えるロータリーの理念であろう。

今、世界は価値観の統一を推し進めるグローバルイズムから、個々の価値観を尊重する多様性へ、と時代の流れが複合化してきた。ロータリーの理念の多様性は近い将来の課題になるのではないか、との予感がする。この命題についてイスラム教徒やヒンズー教徒のロータリアンの考えを聞きたいと思う。日本人のロータリアンにふさわしい理念、標語は「超我の奉仕」と「忘己利他」ではないか、と私は申し上げたい。

以上、勝手な私論を申し述べた。先輩各位のご所見、ご見解をいただければありがたいと思ひ、あえて拙論を披歴した次第である。

## ロータリーの標語 についての考察

須賀川 味戸 道雄

ロータリーの標語「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」を目にした時、私は違和感を覚えた。これらの標語はロー